

平成25年度スジアオノリ養殖概況

牧野賢治・棚田教生

平成24, 25年度の月毎の徳島県漁連共販数量の推移と対前年比を図1に、年度毎の共販数量と平均単価の推移を図2に示した。

主要漁場の吉野川では、台風26、27号が徳島県へ接近する度に種場と養殖漁場の施設を撤収と設置をしていたために、通常より2週間遅れの養殖開始となった。また、台風による大雨の影響により種場の塩分濃度が5psuになり、天然採苗が一時期不調であった。

11月上旬から養殖が開始され、種場での低塩分が回復してからは天然採苗が順調に進んだ。その後、養殖は平成26年2月13日の共販出荷までおこなわれた。吉野川上流部の漁場では、種場の低塩分化による種付けの不調が原

因で、種網を通常よりも長期間設置したことにより、スジアオノリ生殖細胞以外の付着生物が種網に混入して商品の異物となり価格を低下させた。

以上のことから、11月の生産量は対前年比63.2%、12月が同140.1%、1月は同370.3%と、昨年の不漁年に比べ生産量の大幅な増加となった(図1)。平成25年度の共販実績は数量91トン、金額11.3億円、平均単価12,411円だった(図2)。

水産研究課は、漁業者が実施する人工採苗を支援するため、人工採苗用の母藻(吉野川産広域温度対応Y1124)種網を生産し、9月11、24日に大津、川内、応神町、徳島市第一、渭東及び徳島市辰巳の各漁協へ配布した。

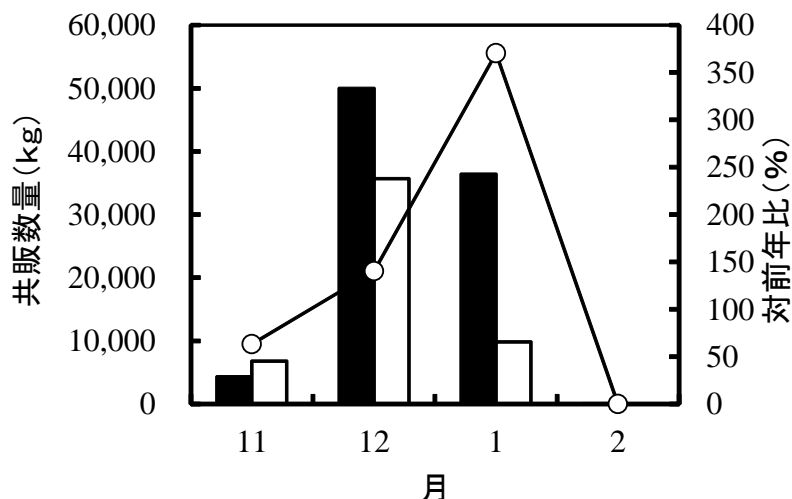


図1. 平成24.25年度における共販数量の経月変化。 :平成25年度； :平成24年度； :対前年比

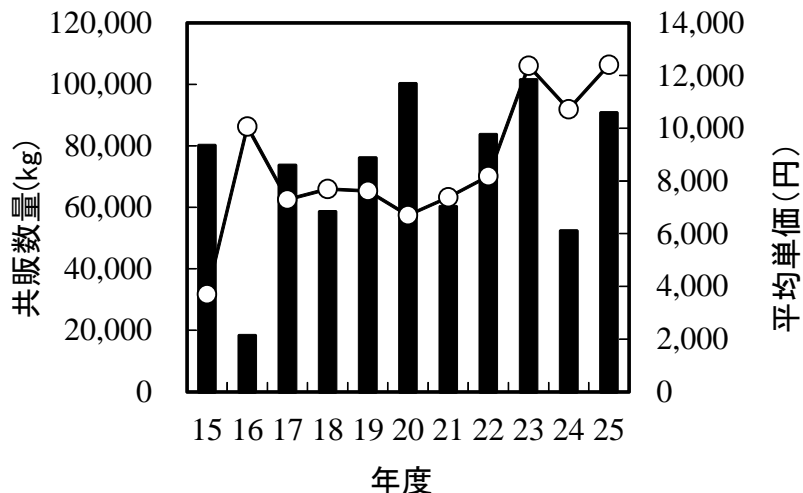


図2. 年度別共販数量と平均単価の推移。 :共販数量； :共販単価